



むぎの郷

April 2016

つうしん

発行/麦の郷情報管理委員会
 〒640-8301 和歌山市岩橋643
 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
<http://www.muginosato.jp>

“麦の郷とは” 住民のニーズから生み出され、
 住民の手によって育てられる

ソーシャルファームピネル/くろしお作業所/くろしお作業所分場/
 麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所
 /はぐるま共同作業所 和の杜/はぐるま共同作業所 ラ・テール/
 けいじん舎/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター「つれもて」
 /麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川生活支援センター/
 ハートフルハウス 創/おぎピース/障害児者サポートセンター「麦の
 郷」/こじか園/第二こじか園/こじか親子教室/ソーシャルファームも
 ぎたて/Po-zzk/事務所/六星舎/麦の郷障害者地域リハビリテーション
 研究所



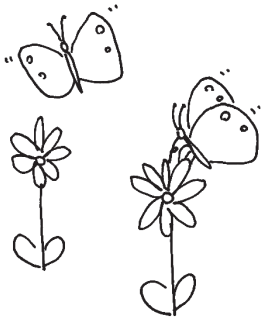
むぎピース 花見 4.4 (月)



はぐるま共同作業所 和の杜 花見 4.1 (金)



第20回 西和佐地区・桜まつり 4.9 (土)



私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1). 麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2). 私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3). 私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりをもとめ、ともに社会変革をめざします。
- 4). 麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



麦の郷全職員研修会

想像力でつなげる 実践をめざして！

1月23日（土）、松原卓氏を講師に迎え、『自分史』振り返りから、『福祉労働』を考えるー福祉の仕事はオモシロイ？』というテーマで、全職員対象の研修を行いました。松原氏は、長年障害者福祉の分野に携わっておられ、現在は県相談支援体制整備アドバイザーをされています。研修は、講義とグループワークの二本立てで行いました。

前半の講義では、松原氏ご自身のこれまでの半生を振り返りつつ、時間と空間を越えて様々なことがつながっていることに意識を向け、「想像力」をもって人がつながっていくことが大切だということに触れられました。昨日、支援や実践がサービス化され、知識やスキル獲得に偏重しつつある流れの中で、まずは目の前の「人」を全人格的にとらえる視点が大切



事なのでは、と投げかけられました。

後半は、5〜8名のグループに分かれ、①自分の強み／この仕事でどう活かすか、②一番気になる最近のできごと・理由／この仕事・活動につながることを一人ひとりが考えて出し合いました。職種や年齢、在职期間がバラバラのグループ編成でしたが、共通する思いがあることがわかったり、同じ事柄に関心をもっていても、違った見方・考え方があったのではないかと感じます（ちなみに②では、某グループの解散問題や某タレントの不倫騒動などが話題に挙がっていました）。今一度研修を思い出し、新年度からの実践につなげてもらえればと思います。（數）

【参加者の声】

○松原さんの自分史の振り返りを聞きながら、自分がこの職業に就いたきっかけを思い出していました。そして十数年、どうして続けてこれたのかな？と考える機会になりました。

○閉鎖的な環境になりがちで、人との会話・意見に耳を傾ける事の少ない日常の為、角度をかえたテーマについているような意見を聞くことができ、とても新しい気持ちになりました。

○今まで自分の強みを考えたことがあまりなかったため、振り返る良い機会になりました。強みを今後いかしていけるようにしたいです。

2月28日（日）麦の郷本部 交流室で、なかまとともに学ぶ「性」学習会が開催されました。昨年、12月20日T-L A B Oさんで開催されたクリスマスパーティーの続編です。クリスマスパーティーでは、なかまと一緒に楽しく過ごしました。その時に先生への質問や、悩み、疑問など、今まさに感じている思いを伝えてもらいました。友達が欲しい、恋人が欲しい、結婚したい、など、まっすぐな思いが伝わってきます。先生になかまの思いを聞いて頂きたい。と思いながら当日の学習会に参加しました。まずは自己紹介、そして将来の夢をみんなです話します。はじめは緊張した様子だったなかまも先生の楽しい話術に話が弾みま



仲間と共に学ぶ性

くろちゃん先生との 学習会に参加して

講師 黒瀬清隆氏（ハートブレイク）

わされん研修
映画 主人公
圭子さんが教えてくれた
障害ということ
〜どんぐりの家〜

わされんの研修会として「次世代に引き継ぎたい事」をテーマとし1970年代から1980年代中盤までの歴史を学ぶと共に「どんぐりの家」を鑑賞しました。

「どんぐりの家」は、埼玉県を舞台に1970年生まれの聴覚・知的の重複障害のある女子（圭子さん）とその家族が、苦悩や葛藤の中でさまざまな経験を通じ成長していく姿が描かれた作品です。また、同じように障害のある子どもと家族の方々がお互いに助け合い励まし合

いながら、ろう重複障害者が通う共同作業所ができるまでの歩みも描かれています。誰もが幸せであるということを前提に描く人生プランの中で、ろう重複障害のある子どもを授かったことで始まった両親の苦悩を自分に重ね合わせ鑑賞しました。今までの自分の考えのあり方を恥ずかしく思うと同時に寄り添うということに対して、いかに薄っぺらなうわべだけの支援であったのか、深い反省の気持ちで胸一杯になりました。また、主人公の圭子さんが、周りを巻き込みながらも精一杯生き共に成長していく姿を観ていく内に、人としてのあたりまえの姿とは何だろうかとの思いが湧き出てきました。

「あたりまえの生活」とは、なんだろうか？「普通」ってなんだろうか？私達が、普段汗水たらして働いて稼いだお金で家賃を払い、税金を払いご飯を食べて休日には遊びにいたりする、そんなあたりまえの日常が幸せであることを日々の生活の中では忘れてしまっています。圭子さんを通して人間として在るべき姿を学び、障害のある人が特別な人では決していないのだと改めて痛感しました。



自分の中で心のバリアが少なからずあったこと、その中で気の毒だからなどの同情や憐れみがなかったか、など自問自答をしました。では、どうしたらいいのか。障害があるないにかかわらず、みんな同じように心を持っているということ。私ができることは、共に生き障害のある人が必要な時に少しばかりのお手伝いさせていたただくこと位しかないと気づきました。

「障害者と健常者としてではなく、人が人として出会う。」この言葉を胸にこれからも共に歩み、また今どこにもつながっていない在宅生活を送る方々がこれから社会や仲間とつながっていくよう切に願います。

今回は、少人数での研修となりましたが、次回ぜひ沢山の方々に参加、鑑賞していただけたらと思います。（京谷）



け、楽しそうに過ごしているなかまの様子にスタッフも自然と笑顔になります。休憩の後は少し難しい内容になり戸惑う表情も見られましたが、そんな時先生からプレゼントが！小さな小さな包みさんがみんなに配られました。「開けて中を見て」の声になかまもスタッフもドキドキしながらそっと包みを開けてみると…中には、またまた小さな小さな点の様なものがテープでそっと張られています。「これ何？」の声も聞こえてきます。じっと静かに見つめる人もいます。なかまたちがざわつき、隣の人と見せ合ったり、口々に話をしていると、先生は答えてくれました。「この小さな物はあなた達がお母さんのお腹にいた時の大きさですよ。」と、様々な表情をしたなかま達。また、先生は一人ひとりの質問に答えて下さる時間も作って下さいました。先生にこそそりお話ししたいなかまは別室で個別に対応してもらいました。どんなお話しをしたのか

（河本）

滋賀旅行

麦の郷印刷

まだまだ寒い日が続く1月29日から1泊2日の日程で滋賀県の琵琶湖周辺へ総勢25名で旅行に行ってきました。小雪が舞うような時期に琵琶湖周辺に行くという事で、雪や寒さの心配をしながらの出発となりましたが、当日はあいにくの雨模様でした。高速道路を北上しながら、彦根方面に近づくとつれづれバスの車窓からは雪景色が見えるようになり寒さが苦手な人からは若干の悲鳴が。そんなこんなで彦根城に着きました。彦根外は結構な大雨でみんな震えながら彦根城の天守閣を目指して歩きました。途中お城の資料館の中でひこにゃんと記念撮影をしたり、井伊家所縁の品々や能舞台、奥座敷などを見たりしました。天守閣の中は狭くて急な階段を登っていかなくてはならず、しかも滑り易く腰が引けてしまうほどでした。また、せっかくだ、せっかくだ、



の見晴らしもあいにくの雨模様で琵琶湖を一望することができず残念でした。

午後からは古い町並みが残されている近江八幡を散策しました。そこでは映画等の時代劇でロケがされている八幡堀があったり、昨年から放送されていた「あさが来た」の主人公のモデル広岡浅子さんと縁のあるヴォーリス（近江兄弟社創立者）が建築した洋館があったりと、歴史にふれることができました。

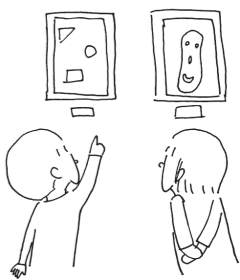
その日は琵琶湖の湖畔にある雄琴温泉に泊まり、夜は美味しい食事とお酒を堪能し、普段見せることの少ない寛いだ雰囲気を楽しみ、身も心も癒されました。

二日目は「枕草子」や「源氏物語」などとも所縁のある石山寺に行きました。ここはパワースポットとしても有名で、寺の本堂は名前の由来ともなる珪灰石（けいかいせき）という巨大な岩盤の上に建っていて、そこから見上げると木々の間から本堂や多宝塔を見ることができました。もう一度桜や紅葉の季節に来てみたいと思います。

その後信楽にて置物の絵付けをする体験をし、楽しい思い出となりました。

短い時間でしたが親睦を深めることができました。来年も旅行に行けるように日々の仕事を精一杯頑張りたいと思います。

(野中孝)



なごころホームに贈り物

なでしこホーム

2011年3月11日、東日本大震災がおきました。15000人も尊い命が奪われた、未曾有の大惨事でした。それに伴い原発事故も発生。日本の安全神話が音を立てて崩れていきました。震災の風潮から日本全体に自粛ムードが漂いはじめ多くの方々も心も疲れ果て、希望の持てない日々が続きました。西和佐地域さくら祭りの開催もためらいましたが、こんな時だからこそ祭りでも明るくしようという決断があったことも憶えにあります。

それから5ヶ月後の7月17日、なでしこジャパンが2011年FIFA女子ワールドカップ優勝という快挙を成し遂げました。日本にとっては久々に明るい話題となり、人々の関心が被災から復興へと転換したひとつの出来事だったといえます。

そのころ麦の郷では、2012年3月に開所を予定するホームの名前を決めるとき仲間からアンケートをとりました。女性ホームはなでしこジャパン



から「なでしこホーム」同時期に開所した男性ホームは震災からの助け合いから生まれた絆から「ホームきずな」と命名しました。まさに生活への希望の光を感じさせるネーミングでした。

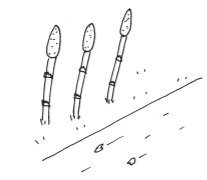
そして今年1月なでしこホームに1枚のサッカーボール型の色紙が届きました。

差出人はなんと！なでしこジャパンの鮫島彩選手からでした。なでしこジャパンから命名したグループホームがあることを知り合いより聞いたことから、プレゼントしてくれました。

まさか実際のなでしこジャパンの選手からサインをいただく機会にめぐまれるとは思ってはいませんでした。本当に仲間職員一同嬉しく感じています。ありがとうございます。

今回はリオ五輪に出場することは叶いませんでしたが、4年後の東京オリンピックでは、この悔しさをバネに快進撃を続け、大輪の「なでしこ」を咲かせてくれると信じています。そして再び日本のみんなを笑顔にすることを仲間、職員ともに期待しています。

(武田)



佐地区社会福祉協議会と麦の郷との桜まつり」が盛大に開催されました。この交流会は今年で20回目を迎えました。

今回は晴天に恵まれ、たくさんの方々が参加してくれました。

やさしい踊りや、チンドンのパフォーマンスではじまり、カラオケでは地区婦人会の皆さんと歌や踊りで大いに盛り上がりました。最後



は、恒例のビンゴゲームをして、おひらきとなりました。

このような交流会は、お互いが顔や名前を知り、親しくなっていくために、継続していくことが大切だと思います。また、普段の近所付き合いといったものも含めて、交流を重ねることで、地域と共に街づくりをしていきたいと思っています。

当日、来賓で来て頂いた皆さん、要員で頑張ってくれた皆さん、参加してくれた地域や麦の郷の皆さん、本当にありがとうございました。

(山本哲)



西和佐地区・桜まつり

4月9日(土) 紀伊風土記の丘にて、「西和



宮本高志さん スポーツ賞&スポーツ奨励賞W受賞♪

昨年行われた、紀の国わかやま大会で優秀な成績（立ち幅跳びで金メダル）をおさめた事で、表彰されました。今回、和歌山市よりスポーツ賞（2/27）、和歌山県よりスポーツ奨励賞（2/17）を頂きました。以前に、和歌山市から2度スポーツ奨励賞を貰った事がありました。今回和歌山市からは、1つ上のスポーツ賞を頂きました。以前に和歌山市からスポーツ奨励賞を貰った事はあったので、今回も貰えるかもと期待はして、「もし、もう一つ上の賞もらえたらどうする??」と冗談半分で話をしたりしていましたが、本当にスポーツ賞を貰えるとは思いませんでした。その上、まさか和歌山県からも表彰されるとは思っていなかったため、ビックリしたのと同時に、とてもうれしかったです。

また、今回表彰を受けたとき、紀の国わかやま大会で一緒の部屋だった人たちも、表彰されていて、会場で再開したとき、「まさか、また会えるとは!!」とうれしい出来事もありました。今年も障害者スポーツ大会に立ち幅跳びで出場する予定なので、頑張りたいと思います。

平成27年度食品 生活衛生関係表彰式

去る2月15日に和歌山市保健所にて、「平成27年度食品・生活衛生関係表彰式」の表彰があり、はぐるま共同作業所ラ・テールの豆腐製造が平成27年度の「食品衛生模範施設」として表彰を受けました。式には、いつもお豆腐を製造しているなかま全員で参加し、代表として賞状も受け取りました。今後ともこの賞に恥じないように食品衛生の向上に努め、お客様に安全・安心の美味しい商品をお届けできるように努力してまいります。ありがとうございました。（湊）



こじか園 防火管理で表彰

3月1日（火）にこじか園が和歌山市消防局より防火管理体制が優秀な事業所に対して贈られる表彰状を頂きました。いろいろな災害を想定して月1回避難訓練を行うことで子どもたちも少しずつ慣れて避難できるようになり、防災頭巾もかぶれる子が増えてきました。親子保育でも年に2回避難訓練を行い保護者も災害についての意識をもってもらうようにしています。これからも、もしもの時に慌てることなく冷静に避難できるように体制づくりに努めていきたいと思っています。（山崎）



助成ありがとうございました

Pozkk (ポズック)

この度、読売愛と光の事業団 生き生きチャレンジ 作業所「アートのか」助成事業により「つなぐれ Po-Zkk ちんどん号」の製作をさせて頂く助成金をいただきました。Pozkkでは、アート作品の商品化と共に「ちんどんパフォーマンス興行」と一風変わった仕事を行っています。Pozkk ちんどん号とは、最新発電機を搭載し楽器・音楽・口上用ワイヤレススピーカーシステムを起動させ、どんな辺境の地でも最高のパフォーマンスが行える実用性と機能性を兼ね備えた高機能リヤカーです。さらに、移動販売リヤカー、紙芝居小屋リヤカーとなる一台三役をこなす仕上がりとなっています。今回、助成をいただいたことにより、ちんどん興行の演目の幅が増えより多くの仲間たちが参加できるようになります。今後、国内外からも認められる最高のちんどんパフォーマンス集団を目指し取り組んでいきますので、よろしくお願いたします。ありがとうございました。（野中康）



むきのひと



第二こじか園
藤本 数馬

子ども支援部第二こじか園の藤本です。学齢期の子どもたちと過ごして4年、就学前の乳幼児と過ごすようになって2年目になります。汗かきなので、毎日汗をかなり大量に流しながら、子どもたちと楽しい日々を送っています。本当に毎日が学びの日々で、先輩職員さんはもちろんのこと子どもたちからも沢山沢山の事を教わっています。子どもたちとは、園庭で遊んだり、さんぽに行ったり、絵を描いたり、これから夏が来ればプールも始まったりと、今年度も沢山遊びたいと思います。そして良い汗を流したいと思います。個人的なところだと、趣味はお酒を飲むことです。気軽に誘ってください。あと、最近あまり行けてないのですが、登山道を守るトレイルランニングというのも趣味にしています。もちろんかなり大量に汗を流しながら走ります。こちら、歩いている登山も含めて、誘ってくれたら嬉しいです。それ以外でも、色々話しかけてください。初対面だと緊張で大量に汗を流しながらになるかもしれませんが、気にせず話しかけてくれたら嬉しいです。